

## マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの「夢」演説と説教

森田 美千代

### 1. はじめに

スタッズ・ターケル (Studs Terkel, 1912-2008) 著の『アメリカン・ドリーム (American Dreams: Lost and Found)<sup>(1)</sup>』は、一九七〇年代のアメリカ人一〇〇人を選んで、「アメリカのほとんどあらゆる人種、職業、都市の人や地方の人、成功者や失敗者、老人や若者を網羅し、『アメリカの夢』をパノラマ的に描き出している」<sup>(2)</sup>。この『アメリカン・ドリーム』の書の解説において、アメリカ文学・アメリカ文化の研究者である亀井俊介は、『アメリカン・ドリーム』という言葉は、いったいいつごろから使われるようになったものなのか。どうもよくわからない。もうひとつわからないのは、その正確な意味である。(中略) こんなに正体不明の言葉はない。それにもかかわらず、やはり『アメリカン・ドリーム』なるものはあるらしい。(中略) アメリカの場合、理念においても現実においても、夢の重要性は大きい<sup>(3)</sup>』と言っている。

また、『アメリカ文化事典』を開くと、「アメリカン・ドリーム」の項目の説明は、ターケルのパノラマ的アメリカン・ドリームを緩やかにまとめているともいえよう。アメリカン・ドリームとは、個人が、経済的に、物質的に、ある

いは社会的に、成功を収めることである。また、そのような側面に加えて、アメリカン・ドリームは、自己充実や自己実現などの精神的なものも意味する<sup>(4)</sup>。

「アメリカン・ドリーム」といえば、上記のような、あいまいな理解が一般的であろう。そうであるならば、マーティン・ルーサー・キング・ジュニア (Martin Luther King, Jr., 1929-1968) の言う「夢」や「アメリカン・ドリーム」もそうであろうか。いや決してそうではない。キングの考える「夢」や「アメリカン・ドリーム」は、異彩を放っている。どのように異彩を放っているか。キングの言う「夢」や「アメリカン・ドリーム」は、アメリカ独立宣言およびアメリカ合衆国憲法と、キリスト教 (聖書) から成っている。これは、キングにおいては、ぶれることなく一貫している。そのことは、キングの「夢」演説と説教において、最大の特徴を成しているといえる。

いつごろから、キングは、「夢」もしくは「アメリカの夢」という言葉を使ったのであろうか<sup>(5)</sup>。ジェイムズ・H・コーンは、次のごとく述べている。『アメリカの夢』という言葉は、一九五〇年代末の演説から現われ始めている<sup>(6)</sup>。キングは一九五九年五月一日にワシントンDCのシェラトン・パーク・ホテルで開催された、政府契約に関する委員会の会合での講演において、リチャード・ニクソン副大統領の前で、『わがアメリカ民主主義の夢 (dream of our American democracy)』について語った<sup>(7)</sup>。したがって、本稿は、一九五九年五月のその演説から始まる。

次は、一九六〇年九月二五日に、NAACP (全国有色人向上協会) の支部の一つであるノース・キャロライナでなされた演説「黒人とアメリカの夢 (The Negro and the American Dream)」である。第三番目は、一九六一年六月六日に、ペンシルヴァニアのリンカーン大学<sup>(8)</sup>でなされた卒業式式辞「アメリカの夢 (American Dream)」である。

第四番目は、一九六二年七月から一九六三年三月の間のどこかの時点で書かれた「打ち砕かれた夢 (Shattered Dreams)」<sup>(9)</sup>である。

第五番目は、一九六三年六月二三日、ミシガン州デトロイトでなされた「コーボー・ホールにおける自由のための大会演説 (Address at the Freedom Rally in Cobo Hall)」である。第六番目は、一九六三年八月二八日に、ワシントンDCでなされた、かの有名な「私には夢がある (I Have a Dream)」演説である。

第七番目は、キングの父親と共同牧会していたエベネザー・バプテスト教会 (Ebenezer Baptist Church) で、一九六五年七月四日におこなわれた「アメリカの夢 (American Dream)」と題された説教である。第八番目は、一九六七年一二月二四日におこなわれた「平和についてのクリスマス説教 (A Christmas Sermon on Peace)」と題された講演 (説教でもある) である。

第九番目は、エベネザー・バプテスト教会で、一九六八年三月三日におこなわれた「実現せざる夢 (Unfulfilled Dreams)」と題された説教である。最後は、テネシー州メンフィスの「キリストにおける神の教会・チャールズ・メイソン監督記念聖堂 (the Bishop Charles Mason Temple [.] Church of God in Christ)」で、一九六八年四月三日になされた「私は山頂に登ってきた (I've Been to the Mountaintop)」と題された演説である。

このようにみてくると、キングは、一九五九年から暗殺されて亡くなる直前の一九六八年まで、実に一〇回にも亘って「夢」や「アメリカの夢」に関する演説や説教をしていることがわかる。また、「夢」や「アメリカの夢」について、演説だけではなくまた説教だけではなく、演説と説教の両方において語っていることがわかる。

以上のことを最初に確認し、以下、キングの「夢」演説と説教を発表された順にしたがってみていくとともに、その「夢」演説と説教の諸特徴を明らかにしたい。

## 2. 一九五九年五月二一日の「宗教指導者会議での演説」 (Address at the Religious Leaders Conference)<sup>(9)</sup>

コーンは、前述したように、「キングは、わがアメリカ民主主義の夢について語った」と述べている。したがって、この演説題は、「わがアメリカ民主主義の夢」であるかのように誤解を与えがちであるが、正しい演説題は、「宗教指導者会議での演説 (Address at the Religious Leaders Conference)」である。

アメリカ民主主義の夢については、この演説の最後の部分において述べられている。そこで述べられていることを要約すれば、次の二点になるであろう。「差別 (discrimination) の癌的病気」は、「わが民主的およびキリスト教的 (our democratic and Christian) 健康」が実現されるのを妨げている。この「差別の癌的病気」が取り除かれたときにのみ、「わがアメリカ民主主義の夢 (the dream of our American democracy)」が実現されるであろう。しかし、それは、「まだ実現されていない夢 (a dream yet unfulfilled)」である (202)。これが第一点である。ここにすでに、生涯に亘るキングの夢思想の基本が表われている (アメリカ独立宣言の文言は、まだ明確に表現されていないけれども)。夢はアメリカ民主主義の夢であり、それは、言うまでもなく民主主義であることと、キリスト教であることから成り立っている。残念なことに、アメリカ民主主義の夢は、まだ実現されていない。第二点は次のことである。夢が実現されると、「非人間性 (inhumanity)」の極めて「真夜中 (midnight)」から、すべての神の子どもたちのための「自由と正義 (freedom and justice)」の輝く「夜明け (daybreak)」へと「われわれは脱するであろう」 (202)。「非人間性」と「自由と正義」が対応し、「真夜中」と「夜明け」が対応している。第二点でいわれていることはこれから、キングの演説

や説教の最後に、繰り返し用いられることになる。

### 3. 一九六〇年九月二五日の「黒人とアメリカの夢 (The Negro and the American Dream)」演説<sup>①</sup>

この演説は、キングが宗教指導者会議で演説した翌年の一九六〇年に、NAACP支部のノース・キャロライナで、二七〇〇人からなる大衆集会において、なされたものである。

キングは、「アメリカは、本質的に夢である」との宣言から、この演説を始める。しかし、「この夢は、まだ実現されていない」と。この夢の中身は、次のことばに表現されているという。「われわれは、自明の真理として、すべての人は平等に造られ、造物主によつて、一定の奪い難い天賦の権利を付与され、その中に生命、自由および幸福の追求の含まれることを信ずる」(508)。つまり、一七七六年七月四日の独立宣言である。キングは、これが夢である、という。キングの言う夢は、アメリカ独立宣言に由来する。このことは、キングの演説と説教において、最初から最後まで一貫していることである。これが、キングの夢に関する、最大の特徴であるということができる。

上記の夢を実現するために、キングは、以下の五つを提言する(509-511)。第一に、人種隔離の制度に挑戦し続ける。第二に、すでに手に入れている自由を、十分に建設的に用いる。第三に、投票できるように決然とした努力をする。第四に、自由を獲得するために、喜んで苦しみそして犠牲になる。第五に、闘いにおいては、非暴力の方法を使う。

#### 4. 一九六一年六月六日のリンカーン大学卒業式式辞

##### 「アメリカの夢 (American Dream)<sup>(2)</sup>」

この演説の始まりは、前年の一九六〇年にN A A C Pの支部ノース・キャロライナでなされた「黒人とアメリカの夢」演説と同じである。つまり、アメリカは本質的に夢である。しかし、この夢はまだ実現されていない。この夢の中心は、一七七六年のアメリカ独立宣言に言い表わされている。この独立宣言が、夢である (208)。

上記の夢を実現するために、われわれがしなければならないことは、次のことである。第一に、世界のあらゆることはお互いに関連しているという、世界的視野 (world perspective) をもたなければならない (209-210)、とキングは言う。第二に、優れた人種と劣った人種が存在するという観念を排除しなければならない (211)。われわれ黒人がすぐにもっている資源としての自由を十分にそして建設的に用いなければならない (212)。第三に、創造的抵抗 (creative protest) をし続けなければならない。創造的抵抗とはなにか。それは、非暴力の抵抗 (nonviolent resistance) である (212-215)。

次に、キングは、社会における不適応 (maladjustment) の勧めをしている<sup>(13)</sup>。アモスは、「正義を洪水のように、恵みの業を大河のように、尽きることなく流れさせよ」と、言った。アブラハム・リンカーン (Abraham Lincoln, 1809-1865) は、「この国『アメリカ』は、半分が黒人奴隷で、半分が自由人では、存在することはできない<sup>(15)</sup>」と、言った。ナザレのイエスは、「敵を愛せよ。あなたがたをのろう人々を祝福せよ。あなたがたを侮辱する人々のために祈れ<sup>(16)</sup>」と、説教した (216)。アモス、リンカーン、イエスが社会における不適応の勧めをしたように、キングも当時の社会 (人種

隔離と人種差別の社会) に対して不適応であれとの勧めをしている。

キングは、この演説の最後を、次の二つのことを述べることによって、閉じている。まず、以上の不適応によって、非人間性のみじめな真夜中から、自由と正義の輝く夜明けへ、われわれは抜け出ることができる(216)。これは、一九五九年の宗教指導者会議で、キングが述べたことと同じである。キングは、ここで一九五九年の演説のフレーズを繰り返していることになる。次に、上記の日には、すべての神の子どもたち——黒人も白人も、ユダヤ人も異邦人も、カトリックもプロテスタントも——は、手を取り合って「ついに自由だ! ついに自由だ! 全能の神に感謝する、われわれはついに自由になった!」というあの古き黒人霊歌(the old Negro spiritual)を歌うことができるだろう(216)と、述べている。この黒人霊歌も、これからキングの演説や説教の最後に、繰り返し用いられることになる。

この黒人霊歌について、黒人霊歌の研究者である小川洋司は、奴隷解放宣言のころに歌われたものであろうとみなしている。<sup>(17)</sup> アメリカ文学・アメリカ文化の研究者であるウエルズ恵子は、奴隷制度廃止前後かもっと後に、流布されたのではないだろうかと、述べている。<sup>(18)</sup>

## 5. 「打ち砕かれた夢 (Shattered Dreams)」<sup>(19)</sup>

「打ち砕かれた夢」の説教については、キングとカーソンが、それぞれ異なるインフォメーションを提供している。キングは、「打ち砕かれた夢」の説教は、ジョージア州の刑務所<sup>(20)</sup>に入っている間に書いた三つの説教のなかの一つである、と言っている。<sup>(21)</sup> カーソンは、キングが獄中で書いた三つの説教のなかに、「打ち砕かれた夢」の説教を入れていない。<sup>(22)</sup> 筆者は、この説教の内容から考えて、キング本人の言っていることが正しいインフォメーションであると考えてい

る。

この「打ち砕かれた夢」の説教の聖書箇所は、「ローマ人への手紙」第一章二三節である。<sup>(23)</sup>「イスパニアに赴く場合、あなたがたの所に行く」。

パウロの生涯は、打ち砕かれた夢の物語である(88、147)。スペインを訪れる計画を立てながら、ローマの牢獄へ送られた(94、158)。

黒人も、自由を夢みてきたが、なおも差別および隔離という牢獄に閉じ込められている。牢獄に閉じ込められている間に、どうすればこの負債を資産に転じられるかと問わねばならないと、キングは言う。否定的な状況を積極的な資産に変えねばならないこと、言う(91-93、154-156)。

しかし、究極的には、打ち砕かれた夢を創造的に取り扱う能力は、神に対するわれわれの信仰によって規定される、とキングは言う。「たとえば、われわれが地上の約束を受け取ることなしにそこで「独房で」死んでも、神は、われわれをあの死と呼ばれる通路へ導き降って、ついに神はわれわれのために備えてい給うあの都に連れていってくださいである。神の創造的な力はこの地上の生活によって、使い果たされはしない」(95-96、160-161) 云々。

この「打ち砕かれた夢」の説教は、これまでの三つの演説とは趣を異にしている。これまでの三つの演説は、いずれも夢を、アメリカ独立宣言に由来するものとして、捉えている。しかし、この「打ち砕かれた夢」の説教には、独立宣言の文言は全然使われていない。

さらに、なぜここに、つまりなぜかくも早い段階で、「打ち砕かれた夢」の説教が出てくるのか。この説教は、一九六八年三月三日に、つまりキングが亡くなる一か月ほど前になされた「実現せざる夢」説教の前後でなされるべきものではなかったか。



6. 一九六三年六月二三日の「コーボー・ホールにおける自由のための

大会演説 (Address at the Freedom Rally in Cobo Hall)<sup>(24)</sup>」

ミシガン州デトロイトでのデモ行進は、C・L・フランクリンがキングに要請して、一九六三年六月二三日におこなわれた。この行進の目的は、公民権運動と、フランクリン率いるデトロイト人権委員会と、そしてその委員会が加盟している南部キリスト教指導者会議とに対する、地域レベルでのより高度の意識を作り出すことであつた。<sup>(25)</sup>行進の最後に、デトロイト市中心街のコーボー・ホールで決起集会が開かれた。キングの演説は、その決起集会でおこなわれたものである。

演説の後半の部分は、この演説からおよそ二か月後にキングがおこなつた、あの有名な「私には夢がある」演説と、よく似ている。とはいえ、詳細にみていくと、順序や完成度においてこれら二つの演説はやや異なっている。しかし、この演説は、「私には夢がある」演説を予示するものとなつていえるといえよう。この演説と「私には夢がある」演説は、一連のものとして理解されるべきである。そういう意味において、この演説は重要であるといえる。

この演説の後半の部分は、「今日の午後、私には夢がある。それは、アメリカの夢に根ざした夢である」から、始まつている。

次に、具体的な夢が六つ挙げられている。このように具体的な夢を挙げるのは、これまでのキングの演説や説教にはなかつたことで、この演説で初めてなされたことである。しかし、この具体的な夢の挙げ方は、順序や内容において、この演説からおよそ二か月後になされた「私には夢がある」演説に比較して、やや散漫であるといわざるをえない。

具体的な夢を列挙したあとに、キングは、聖書とアメリカ独立宣言を引用している。聖書は、アモス書第五章二四節とイザヤ書第四〇章四―五節である。アモス書第五章二四節とアメリカ独立宣言はこれまでも引用している。アモス書に関していえば、一九六一年のリンカーン大学卒業式辞「アメリカの夢」において引用している。アメリカ独立宣言に関していえば、一九六〇年の「黒人とアメリカの夢」や一九六一年のリンカーン大学卒業式辞「アメリカの夢」において引用している。初めてこの演説で用いているのは、イザヤ書第四〇章四―五節である。「もろもろの谷は高くせられ、もろもろの山と丘とは低くせられ、高低のある地は平らになり、険しい所は平地となる。こうして主の栄光があらわれ、肉なる者は皆共にこれを見る」。つまり、神の救いの業が今やおこなわれんとしている、ということである。<sup>(26)</sup>

最後に、もう一度「今日の午後、私には夢がある」と、キングは言う。そして、この夢（キングは、ここでは、「この信仰」と言い換えている）をもつてすれば、われわれは新しい日（new day）に到達することができようであろう（72、80）と、言う。その新しい日には、すべての神の子どもたち——黒人も白人も、ユダヤ人も異邦人も、プロテスタントもカトリックも——が、共に手を取り合って、「ついに自由だ！ ついに自由だ！ 全能の神に感謝する、われらはついに自由になった！」という、あの古き黒人霊歌を歌うことができるようになるであろう（72-73、91）、と言う。これは、前述の、一九六一年リンカーン大学卒業式辞の最後で述べたものと同じである。

## 7. 一九六三年八月二八日の「私には夢がある（I Have a Dream）」演説<sup>(27)</sup>

この「私には夢がある」演説は、キングの「夢」演説と説教のなかで、最も有名であり、いまだにアメリカ人のみならず世界の人々が記憶している演説である。そのみならず、構成の面からも内容の面からも、キングの「夢」演説と

説教において最高のものであるといえる。つまりは、「I Have a Dream」演説の内容の面を論じる。

この演説は、「仕事と自由のためのワシントン行進における演説」としてなされた。最初は主として「仕事」に焦点を置いていたが、「バーミングハム運動におけるキングの成功の結果、その方向を自由に向け直して」、「仕事と自由のためのワシントン行進」となった。<sup>(28)</sup>

また、この演説は、リンカーンが「奴隷解放宣言 (Emancipation Proclamation)」に署名してからちょうど百年後の一九六三年八月二八日に、ワシントンDCのリンカーン記念堂にてなされた演説である。

「I Have a Dream」演説の内容は、前半と後半の二つの部分に分かたれているとみなすことができる。その前半は、リンカーンに言及することから始まっている。これは、「時」といい「場所」といい、「内容」といい、まことにみごとな演説開始であるといえることができる。キングは、語り始める。「今から百年前、われわれが今日その人物像のもとに立っている一人の偉大なアメリカ人「リンカーンのこと」が、奴隷解放宣言に署名した」(81, 99)。キングは、「百年前」を「Five score years ago」と表現している。これは明らかに、リンカーンのゲティスバーグ演説 (Gettysburg Address) を、キングが意識していたといつてよい。<sup>(29)</sup>つまり、キングは、奴隷解放宣言とゲティスバーグ演説という、まことに最適な土台を足掛かりとして演説を開始した。

「しかし百年たった今も (one hundred years later)」、まだ黒人は自由 (free) ではない」(81, 99) と、キングは言う。キングは、「百年たった今も」という言い回しを、一つの節のなかで四回も繰り返して使っている。

「それゆえわれわれは今日、この恥ずべき状況を劇的に描き出すために集まった」(81, 99-100) と、キングは語りかける。具体的には、第一に「われわれは、この国の首都に小切手を現金化するために「独立宣言に記されていることを現実のものとするために」来た」(81-82, 100) と言う。第二に、キングは、「われわれはまた、アメリカという国に、今しかないという緊急性 (the fierce urgency of now) を認識させる為に、この聖なる場所にやってきた」(82, 100) と

言う。この直後にキングは、「今こそ (Now is the time)」というフレーズをたたみ込むようにして四回も繰り返し使っている。このようにして、事態の緊急性を強調している。

次に、キングは、「いつになったら、黒人は満足するのか」と問う人々（主に白人）に向かって、旧約聖書のアモス書第五章二四節を引用して、正義 (justice) が洪水のように流れ、神の義 (righteousness) が大河の「とく」尽きることなく流れるようになるまでは、黒人が満足することはありえない (84, 102)、と言う。

黒崎真は、「I Have a Dream」演説における正義の強調を指摘している。彼は言う。「実際、同演説『I Have a Dream』演説』において、『愛 (Love)』という言葉は一度も使用されていない。これに対し『不正 (injustice)』という言葉は三回、『正義 (justice)』という言葉は実に八回も使用されている」と指摘している<sup>(30)</sup>。キングは「イエスの愛」を強調した人とみなされるが、彼は実際にはそれと同じように「神の正義」をも強調した人である。

これまでのところは、キングは、いわば黒人を代表する者として、ワシントン行進に参加している白人と黒人に向かってスピーチをしている。しかし、ここからあとは、黒人に向かって語りかけている。キングは、黒人同胞に「戒め」と「励まし」を与えている（「I Have a Dream」演説だけではなく、ほとんどの演説と説教において、そうである）。（その点が、キングがマルコムXと違うところであると、いえないであろうか）。

キングはここで、黒人同胞に伝えたいこととして、三つのことを挙げている。第一は、筆者のことばで言えば、牧師であるキングが率いる公民権運動は、白人を打ち負かすことをねらいとするものでは決していない、ということである (83, 101)。第二に、キングは、「苦難をくぐり抜けてワシントン行進にやってきた人々「黒人の人々」がいることを知っている」と言ったうえで、彼らに対して、「自ら招かざる苦難 (suffering)」「創造的苦難 (creative suffering) でもある」は贖罪的 (redemptive) であると信じて闘い続けよう」(84, 102-103) と「励ましている。第三に、キングは、黒人たちに向かって、自らの共同体に帰っていくことを勧めている。キングは、なぜ自らの共同体に帰っていくこ

とを、勧めたのか。コーンによれば、黒人たちがワシントンにやってきた課題を果たすように、キングは彼らに自らの共同体に帰るように勧めた（実際は励ました<sup>31</sup>）。コーンの言っていることと同じであるが、ハンセンによれば、キングの演説によって示された夢を実現するために、である<sup>32</sup>。

後半の部分は、次のところから始まる。

だから私は今日あなたがたに申し上げたい。今日も、そして明日もわれわれが困難に直面するとしても、私はなお夢をもつのだ（I still have a dream）ということ。それはアメリカの夢（the American dream）に深く根ざした夢である（85、103）。

ここで確認しておくべき重要なことは、キングの言う「夢」は、「アメリカの夢」に根ざしているということである。「アメリカの夢に根ざしている」とは、どういうことか。キングは、次のように述べている。

いつの日かこの国が立ち上がって「我らは、これらの真理を自明のものとして承認する。すなわち、全ての人は平等（equal）につくられている」というあのわが国の信条のもつ真の意味を生きるようになるであろうという夢である（85、103）。

いつの日か、すべての谷は隆起し、丘や山は低地となる。荒れ地は平らになり、歪んだ地も真っ直ぐになり、そして主の栄光が現れる。その光景を肉なる者が共に見るという夢である（85-86、104）。

前者には、一七七六年に出された独立宣言の一部が取り入れられている。後者は、イザヤ書第四〇章四―五節である。神の救いの業が今やおこなわれんとしている<sup>(33)</sup>。つまり、キングの言う「夢」が「アメリカの夢」に根ざしているとは、アメリカ独立宣言および聖書（キリスト教）に根ざしているということであるといつてよい。

黒崎は、そのことを、次のように換言している。「アメリカの夢」とは「アメリカ建国の理念」のことであり、「アメリカ建国の理念」とは、「ユダヤ＝キリスト教の伝統」と「独立宣言と憲法に述べられている民主主義の精神」のことである<sup>(34)</sup>。

アメリカ独立宣言と聖書（キリスト教）という二つの普遍的な夢を枠構造として、そのあいだに四つの具体的な夢を、キングは挿入している。

これまで述べてきたキングの「夢」は、「希望 (hope)」と言い換えることもできるし、また「信仰 (faith)」とも換言できる。それは、前半部分の最後を、キングは、「絶望の谷に彷徨うのはもうやめよう」という言葉で終え、後半部分の最初を「夢」について語った直後に、キングは、「これ」これまで述べてきた夢「がわれわれの希望なのだ」と、言っているからである。「希望」を「信仰」と言い換えることができるのは、キングが、「希望」のすぐあとに、「この信仰をもって (with this faith)」と言い換えているからである (86、104)。

ちなみに、「この信仰をもって」という表現を、キングは、一節のなかに三回も使っている。つまり、「この信仰をもってわたし「キング」は南部に帰っていく」、「この信仰をもってすれば、われわれは絶望の山から希望の石を切り出すことができ、この国「アメリカ」の不協和音を交響曲に作り替えることができる」、「この信仰をもってすれば、われわれは共に自由のために立ち上がることができる」 (86、104)。

そのとき、キングは、旧アメリカ国歌を歌うことができるだろうと、言う。すなわち、「わが祖国、そは汝のもの、麗しき自由の国、我は汝を称う。わが父祖たちの死せる国、巡礼父祖の誇れる国、さらばすべての山々から自由の鐘を

鳴り響かせよ！」(86, 104)と。<sup>(36)</sup>

「すべての山々から」(アメリカの国の隅々から)自由の鐘を鳴り響かせれば、黒人であれ白人であれ、ユダヤ人であれ異邦人であれ、プロテスタントであれカトリックであれ、すべての人が、「ついに自由だ！ ついに自由だ！ 全能の神に感謝する、われらはついに自由になった！」(87, 105)と歌うことができるろうと言って、キングは“I Have a Dream”演説を終えている。この終え方は、一九六一年のリンカーン大学卒業式式辞「アメリカの夢」および一九六三年の「コーボー・ホールにおける自由のための大会演説」と、まったく同じである。

## 8. 一九六五年七月四日の「アメリカの夢 (American Dream)」説教<sup>(37)</sup>

この説教は、アメリカ独立記念日である七月四日に、キングの父親と共同牧会していた、ジョージア州アトランタのエベネザー・バプテスト教会で、おこなわれた。

アメリカの夢は一七七六年のアメリカ独立宣言に表わされている(86, 121)と述べることから、キングはこの説教を始める。次に、そのアメリカの夢を実現するためには、人種隔離と人種差別を取り除かなければならない(96, 132)、と言う。そのためには、適切な方法を用いなければならない。その適切な方法とは、非暴力の方法である(96, 133)。

この説教は、一九六五年になされている。キングは、ここで、二年前の「私には夢がある」演説を出して、それまでに(一九六三年までに)抱いてきた夢をそこで(一九六三年の「私には夢がある」演説で)語ったと言っている。しかし、その直後(「私には夢がある」演説の直後)から、その夢は悪夢(nightmare)に変わり、その夢は打ち砕かれた(shattered)(98, 135)。けれども、「私はまだ夢を失っていない、<sup>(38)</sup>私にはまだ夢がある」(99, 136)と言う。ハッピー、

「夢から悪夢へ、にもかかわらずもう一度夢へ」という循環を、われわれは看取できる。

最後に、「私には今朝、まだ夢がある」というフレーズが五回繰り返し返されている。そのうち三回の内容は、聖書からの引用である。イザヤ書第一章六節（キングのことばでは、「いつの日か獅子と子羊は共に伏し」）およびゼカリヤ書第三章一〇節（キングのことばでは、「すべての人は自分のぶどうの木と無花果の木の下に座り、だれも恐れないだろう」と、創世記（キングのことばでは、「いつの日かあらゆる所のすべての人が、神は一つの血からすべての人を造り、地の全面に住まわせたことを、認識するだろう」と、イザヤ書第四〇章四―五節（キングのことばでは、「いつの日かすべての谷は高くされ、すべての山と丘は低くされ、でこぼこのところは平らにされ、曲がったところは真っ直ぐにされる。こうして主の栄光が現われ、すべての肉はそれとともに見るであろう」）である。

最後の最後は、独立宣言の引用で結ばれている。ということは、この説教は、独立宣言の引用で始まり、独立宣言の引用で終わっていることになる。それは、至極理にかなったことである。なぜなら、この説教は、アメリカ独立記念日の七月四日になされているからである。

## 9. 一九六七年二月二四日の「平和についてのクリスマス説教 (A Christmas Sermon on Peace)」<sup>(39)</sup>

これは、一九六七年二月二四日に、マセイ (Massey) ・レクチャーのシリーズの最終講演として、カナダ放送局から放映されたものである。同時にこれは、エベネザール・バプテスト教会のクリスマス説教として「地には平和を (Peace on Earth)」と題して説教されたものである。



この説教（講演でもある）も直前の一九六五年の「アメリカの夢」と同様に、「私には夢がある」演説で「夢」を語ったが、「夢を語ったその後いくばくも経たぬ間に、私はそれらの夢が悪夢へ変わり果ててゆくのをこの目で見てきた」（76, 97）という。しかし、それにもかかわらず、「私は今なお夢をもちつづけている」（76, 98）と、キングは言う。これは、一九六五年の「アメリカの夢」説教と同じく、「夢から悪夢へ、にもかかわらずもう一度夢へ」という循環があるといえるであろう。

最後にかんりのスペースを割いて、夢の具体的内容と聖書の引用を取り混ぜて述べている。けれども、それらはアトランダムに羅列されている。

## 10. 一九六八年三月三日の「実現せざる夢（Unfulfilled Dreams）」説教<sup>(40)</sup>

この説教は、一九六八年三月三日に、ジョージア州アトランタのエベネザー・バプテスト教会でなされた。キングが暗殺されるほぼ一か月前である。この説教が事実上、キングの生涯において、自らの教会でおこなった最後の説教である。説教の聖書箇所は、「列王記 上」第八章である。

「人生の大きな嘆きの一つは、われわれは常に実現せざるものを実現しようとして試みているということである」（192, 238）と、キングは言う。「人生は打ち砕かれた夢の絶えざる物語である」（192, 238）。そのように、人生においては、夢は果たされないといえるかもしれない。

しかし、キングは言う。夢を果たそうと試みることに、そして正しい道に乗っていること（正しい道にいないこと）、が重要である（196-197, 242-243）、と。正しい道に乗っていることの例として、モンゴメリーからロサンゼルスまで行

くにはハイウェイ八〇号線にすることが重要なのである、との例を挙げている。ハイウェイ七八号線でロサンゼルスに行こうとすることが問題なのである。もし正しい道にいるならば、神の恵みがあり、そのことが「救い」なのである。

キングの演説や説教のなかで、この「実現せざる夢」説教と、以前に出てきた「打ち砕かれた夢」説教は、どちらも独立宣言の文言が全然使われていないという点において、また、「人生は打ち砕かれた夢の絶えざる物語である」という点において、共通している<sup>(4)</sup>。

## 11. 一九六八年四月三日の「私は山頂に登ってきた

### (I've Been to the Mountaintop)」演説<sup>(42)</sup>

この演説は、キングが、暗殺される前夜、「キリストにおける神の教会・チャールズ・メイソン監督記念聖堂」において、テネシー州メンフィスの一万一千人の群衆に向かつて、なされた。この演説は、事実上、キングの人生における最後の演説となった。

キングの演説や説教はほとんどのものが、詩的である故に、論理的ではない。この演説も然りである。そのようなかで、二つのことを取り上げることにした。

第一は、キングが、黒人を排除するレストランで座り込みをして抗議行動をおこなった学生たちのことを、「アメリカの夢の中でも最も良質な夢の擁護のために立ち上がった。彼らは、建国の父祖たちが独立宣言と憲法によって深く掘り下げた民主主義という大きな泉「夢」のところまで、アメリカ人すべてを連れ戻してくれた」(221, 24)と、言っていることである。ここにも、キングが、アメリカの夢はアメリカの民主主義のことであり、そのアメリカの民主主義

は建国の父祖たちが全力を傾注して作った独立宣言と憲法から成ると理解していたことが、はつきりとわかる。

第二は、自らの死を予感していたかのごとく、キングが次のように述べていることである。「私「キング」は山の頂に登ってきた。(中略)神は私を山の頂まで登らせてくれた。頂から約束の地が見えた。私自身は皆と一緒に約束の地に行けないかもしれない。でも知ってほしい。私たちは一つの民 (as a people) として約束の地に行くのだということ。だから私は今嬉しい。(中略)主が栄光の姿で私の前に現われるのをこの目で見たのだから」(222-223、245-246)。<sup>(23)</sup>

キングは、公民権運動が完全に成し遂げられるという「約束の地」まで黒人同胞と一緒に行きたいと願った。しかし、キングは、自分自身は約束の地には行けないと、予感している。けれども、神はキングを山の頂まで登らせてくれて、約束の地を見させてくれた。キングは黒人同胞に向かって、バラバラではなく「一つの民として」約束の地にたどり着いてほしいと、黒人同胞を力づけ、励ましながら、キング自身は暗殺されて、人生の舞台から消えていった。キングの死は、黒人同胞が約束の地カナンに入るための「捨石」となった死であつたといえるのではないか。

## 12. おわりに

これまで、キングの「夢」演説と説教を、発表された順にしたがつてみてきた。最後に、キングの「夢」演説と説教の諸特徴を列挙してみたい。

キングは、「夢」や「アメリカの夢」について、演説と説教の両方において語っている。キングは、演説と説教を、内容上あまり厳密に区別していない。いや、演説も説教のように語つたというのが、キングの場合、正確であろう。黒

崎真は、そのことを次のように述べている。「研究者H・J・スピラーズは、黒人教会以外でおこなわれたキングの演説に関しても、『キングはつねに説教をした。彼の政治的演説でさえ、その詩的描写と構造という点において、説教であつた』と指摘する<sup>(44)</sup>。違いはただ、演説が大衆集会や会議でなされ、説教が教会の礼拝でなされた、ということであろう。

キングは、同じ文言をさまざまな説教や演説で用いている。このようなやり方は、どのような哲学でなされているのか。

キングの言う「夢」や「アメリカの夢」は、アメリカ独立宣言およびアメリカ合衆国憲法と、キリスト教（聖書）から成っている。これは、キングの「夢」演説と説教においては、一貫しており、大きな特徴を成しているといえる。また、独立宣言と憲法では、圧倒的に独立宣言が多く使われている。憲法という用語が使われているのは、「私には夢がある」演説と、最後の「私は山頂に登ってきた」演説である<sup>(45)</sup>。なお、キングは、繰り返し、「アメリカの夢」はまだ実現されていないと言っている。

キングは、モンゴメリー・バス・ボイコット運動を率いていた時には、「夢」や「アメリカの夢」ということばは使っていなかった。キングが初めてそれらの表現を用いたのは、一九五九年からである。その後は、暗殺されて亡くなる直前の一九六八年まで、一〇回にも亘って、「夢」に関する演説や説教をしている。

一九六三年の「私には夢がある」演説は、キングの「夢」演説と説教のなかで、最も有名であり、いまだにアメリカ人のみならず世界の人々が記憶している演説である。そのみならず、構成の面からも内容の面からも、キングの「夢」演説と説教において最高のものであるといえる。

一九六五年の「アメリカの夢」説教や一九六七年の「平和についてのクリスマス説教」ごろから、内容において、「夢から悪夢へ、にもかかわらずもう一度夢へ」という循環がみられる。

キングの演説や説教のなかで、「打ち砕かれた夢」説教と一九六八年の「実現せざる夢」説教は、どちらも独立宣言の文言が全然使われていないという点において、また「人生は打ち砕かれた夢の絶えざる物語である」という点において、共通している。これら二つの説教は、キングのその他の演説や説教とは趣を異にしている。

一九六八年の「私は山頂に登ってきた」演説は、キングの人生における最後の演説となった。自らの死を予感していたかのような内容である。

#### 謝辞

本稿は、二〇一六年七月二五日におこなわれた第一回「ラインホールド・ニーバー研究会」（代表・高橋義文聖学院大学大学院客員教授・聖学院大学総合研究所所長）での報告をもとにしている。報告の機会を与えていただいたことに、感謝の意を表します。

報告後の質疑応答では、キングがリンカーンやアモス書にたびたび触れていることと「神の正義」との関係、キングの「夢」と黒人の経済的地位向上との連関、また、ニーバーの影響を受けたキングなどについて、議論が交わされた。建設的な議論を導いてくださった諸先生方と、議論に積極的に加わってくださった多くの大学院生の方々に、感謝申し上げます。

#### 注

- (1) Studs Terkel, *American Dreams: Lost and Found* (New York: Pantheon Books, 1980); スタッツ・ターケル『アメリカン・ドリーム』中山容他訳、白水社、一九九〇年。

(2) 亀井俊介・鈴木健次編著『自伝でたどるアメリカン・ドリーム』河合出版、一九九二年、三九〇頁。

(3) 同上、三九〇頁。

(4) 亀井俊介編『アメリカ文化事典』研究社、一九九一年、四四―四五頁。

(5) なぜ、キングは、「夢」もしくは「アメリカの夢」という言葉を使つたのであろうか、という疑問に關して、リチャード・リシャールの次の指摘は、参考になる。夢というメタファーは、黒人宗教の主要素 (staple) であり、預言者ヨエルの幻 (vision) (ヨエル書第三章一節) と同じ位古く (old)、ヨルダン川の向う岸のより良き生というイメージと同じ位ありふれて (commonplace) いた。Richard Lischer, *The Preacher King: Martin Luther King, Jr. and the Word that Moved America* (New York: Oxford University Press, 1995), 93; リチャード・リシャール『説教者キング——アメリカを動かした言葉——』梶原壽訳、日本キリスト教団出版局、二〇一二年、一四三―一四四頁。

(6) ということは、キングは、モンゴメリー・バス・бойコット運動を率いていた時には、「アメリカの夢」ということばは使つていなかったことになる。

(7) James H. Cone, *Martin & Malcolm & America: A Dream or a Nightmare* (New York: Orbis Books, 1991), 66; ジェイムズ・H・コーン『夢か悪夢か・キング牧師とマルコムX』梶原寿訳、日本基督教団出版局、一九九六年、一〇二頁。コーンは、注のなかで、キング・センター資料に基づいて、次のように記している。“American Dream”演説は、以下の違った機会に何回も行われた。Charlotte, N.C. (25 September 1960); Savannah, Ga. (1 January 1961); Lynchburg, Va. (12 March 1961); Lincoln University (6 June 1961); Brooklyn, N.Y. (10 February 1963).」(Cone, 327; 梶原訳、四四八頁)。なお、「アメリカン・ドリーム」ということばそのものは、アメリカの作家・歴史家であるジェームズ・トラスロー・アダムズ (James Truslow Adams, 1878-1949) が、一九三一年に『アメリカの叙事詩 (*The Epic of America*)』において、最初に使つたとされている。黒人の詩人であるラングストン・ヒューズ (Langston Hughes, 1902-1967) も「アメリカン・ドリーム」に関する詩を多く書いている。ビンセント・ハーディング、池田大作『希望の教育 平和の行進——キング博士の夢とともに——』第三文明社、二〇一三年、三六九頁、四二一頁、四三一頁。菊地順は、「アダムズが『アメリカン・ドリーム』という言葉を最初に言い出したのかどうか、あるいは誰かが言っているのを聞いたのかどうか、は不明である」と記している。菊地順「ジャパニーズ・ドリーム」『キリスト教と諸学』二七号、聖学院キリスト教センター、二〇一二年、七二頁。

- (8) リンカーン大学は、一八五四年ペンシルヴァニア州に創設されたアフリカ系アメリカ人の大学である。初代ガーナ大統領のクワメ・エンクルマ (Kwame Nkrumah, 1909-1972) は、このリンカーン大学で、学位を取得している。詩人ラングストン・ヒューズは、この大学を卒業している。ハーディング・池田、四二二頁。
- (9) 蓮見博昭訳では「破れた夢」、梶原壽訳では「打ち砕かれた夢」である。本稿では、梶原訳を用いることとする。
- (10) Martin Luther King, Jr., "Address at the Religious Leaders Conference," in *The Papers of Martin Luther King, Jr. Volume V*, ed. Clayborne Carson (Berkeley: University of California Press, 2005), 197-202. なお、この演説からの引用頁数は、( ) 内に記す。
- (11) Martin Luther King, Jr., "The Negro and the American Dream," in *The Papers of Martin Luther King, Jr. Volume V*, ed. Clayborne Carson (Berkeley: University of California Press, 2005), 508-511. なお、この演説からの引用頁数は、( ) 内に記す。
- (12) Martin Luther King, Jr., "The American Dream," in *A Testament of Hope: The Essential Writings of Martin Luther King, Jr.* ed. James M. Washington (San Francisco: Harper & Row, Publishers, 1986), 208-220. なお、この演説からの引用頁数は、( ) 内に記す。
- (13) キングは、逆説的意味で、「不適応」ということばを使っている。
- (14) アモス書第五章二四節。
- (15) スプリングフィールドにおける共和党州大会にてなされた「分かれたる家は立つこと能わず」の演説を指している。
- (16) ルカによる福音書第六章二七-二八節。
- (17) 小川洋司『深い河のかたへ——黒人霊歌とその背景——』音楽之友社、二〇〇一年、二五五頁。
- (18) ウェルズ恵子『黒人霊歌は生きている——歌詞で読むアメリカ——』岩波書店、二〇〇八年、三頁。
- (19) Martin Luther King, Jr., "Shattered Dreams," in *Strength to Love* (Philadelphia: Fortress Press, 1981), 87-96; マーティン・ルーサー・キング「打ち砕かれた夢」『汝の敵を愛せよ』蓮見博昭訳、新教出版社、一九六五年、一四六-一六二頁。なお、この説教からの引用頁数は、( ) 内に原著、日本語訳の順序で記す。
- (20) オルバニーの刑務所のことと思われる。

- (21) 三つの説教とは、「働く愛 (Love in Action)」、「汝の敵を愛せよ (Loving Your Enemies)」、「打ち砕かれた夢 (Shattered Dreams)」を指す。Martin Luther King, Jr., *Strength to Love* (Philadelphia: Fortress Press, 1981), 11; マーティン・ルーサー・キング『汝の敵を愛せよ』蓮見博昭訳、新教出版社、一九六五年、二頁。
- (22) カートンは、「働く愛」、「汝の敵を愛せよ」そして「強固な精神とやろしい心 (A Tough Mind and a Tender Heart)」を入れつつ。Clayborne Carson, ed., *The Autobiography of Martin Luther King, Jr.*, (New York: Intellectual Properties Management, Inc. in Association with Warner Books, 1998), 165; マーティン・ルーサー・キング『マーティン・ルーサー・キング自伝』クレイボーン・カートン編、梶原寿訳、日本基督教団出版局、二〇〇一年、一九九頁。
- (23) 新共同訳聖書による。口語訳聖書では二三節である。
- (24) Martin Luther King, Jr., "Address at the Freedom Rally in Cobo Hall," in *A Call to Conscience: The Landmark Speeches of Dr. Martin Luther King, Jr.*, ed. Clayborne Carson and Kris Shepard (New York: Intellectual Properties Management, Inc. in Association with Grand Central Publishing, 2001), 61-73; M・L・キング[述]「コーボー・ホールにおける自由のための大会演説」『私には夢がある——M・L・キング説教・講演集——』クレイボーン・カートン、クリス・シェパード編、梶原寿監訳、新教出版社、二〇〇三年、七八―九一頁。梶原監訳では「コーボー・ホール解放大会演説」となっているが、筆者は「コーボー・ホールにおける自由のための大会演説」と訳した。なお、この演説からの引用頁数は、( )内に原著日本語訳の順序で記す。
- (25) Aretha and Erma Franklin, "Introduction to Address at the Freedom Rally in Cobo Hall," in *A Call to Conscience* (New York: Intellectual Properties Management, Inc. in Association with Grand Central Publishing, 2001), 57-58; 「解題」『私には夢がある——M・L・キング説教・講演集——』クレイボーン・カートン、クリス・シェパード編、梶原寿監訳、新教出版社、二〇〇三年、七四―七五頁。
- (26) 手塚儀一郎他編『旧約聖書略解』日本基督教団出版局、一九五七年、六九四頁。
- (27) Martin Luther King, Jr., "I Have a Dream," in *A Call to Conscience: The Landmark Speeches of Dr. Martin Luther King, Jr.*, ed. Clayborne Carson and Kris Shepard (New York: Intellectual Properties Management, Inc. in Association with Grand Central Publishing, 2001), 81-87; M・L・キング[述]「私には夢がある」『私には夢がある——M・L・キング説教・講演集——』



クレイボーン・カーソン、クリス・シェパード編、梶原寿監訳、新教出版社、二〇〇三年、九九―一〇五頁。この演説からの引用頁数は、(一)内に原著、日本語訳の順序で記す。なお、「7. 一九六三年八月二八日の『私には夢がある (I Have a Dream)』演説」は、筆者が二〇一二年三月発行の『キリスト教と諸学』二七号において、「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアによる『I Have a Dream』演説の構造と内容」と題して書いた小論文と、多くの箇所でも重複していることを、前もってことわっておかねばならない。本稿、7の項目は、二〇一二年の筆者による小論文の転載となっている部分が多あることを、最初にことわっておかねばならない。

- (28) Cone, 82; コーン『夢か悪夢か・キング牧師とマルコムX』、一二三頁。
- (29) リンカーンは『Four score and seven years ago』という表現をしている。
- (30) 黒崎真「説教としての『I Have a Dream』演説——キング牧師と黒人キリスト教信仰の伝統——」『異文化コミュニケーション研究』第一六号、神田外国語大学、二〇〇四年、三二頁。
- (31) Cone, 84; コーン、一二六頁。
- (32) Drew D. Hansen, *The Dream: Martin Luther King, Jr., and the Speech that Inspired a Nation* (New York: Harper Collins Publishers, 2003), 162.
- (33) 手塚儀一郎他編『旧約聖書略解』日本基督教団出版局、一九五七年、六九四頁。
- (34) 黒崎、「説教としての『I Have a Dream』演説」、二六―三〇頁。
- (35) S・F・スミス作詞、H・カーリー作曲によって、一八三一年に制定された。
- (36) ここでは、「巡礼父祖の誇れる国」について、キングは何も言っていないが、「バーミングハムの獄中からの手紙」のなかでは、「巡礼父祖たちがプリマスに上陸する前から、私たちはここにいました。ジェファースンのペンが独立宣言の荘厳な言葉を歴史のページを越えて書き留める前から、私たちはここにいました」と、キングは記している。
- (37) Martin Luther King, Jr., "The American Dream," in *A Knock at Midnight: Inspiration from the Great Sermons of Reverend Martin Luther King, Jr.*, ed. Claborne Carson and Peter Holloran (New York: Intellectual Properties Management, Inc. in Association with Warner Books, 1998), 85–100; マーティン・ルーサー・キング「述」『アメリカの夢』『真夜中に戸をたたく——キング牧師説教集——』クレイボーン・カーソン、ピーター・ホロラン編、梶原寿訳、日本キリスト教団出版局、二〇〇七年、

一二―一三七頁。なお、この説教からの引用頁数は、(一)内に原著、日本語訳の順序で記す。

- (38) 梶原訳では「私はまだ夢を失ってはいない」となっているが、キングは「私はまだ信仰を失ってはいない」と言っている。筆者は、これまでに、キングにおいては「夢」も「信仰」も「希望」も同じ意味であると指摘したことがあるように、梶原訳でも誤訳ではないといえる。

- (39) Martin Luther King, Jr., "A Christmas Sermon on Peace," in *The Trumpet of Conscience* (New York: Harper & Row Publishers, 1968), 67-78; マーチン・ルーサー・キング「平和についてのクリスマス説教」『良心のトランペット』中島和子訳、みず書房、一九六八年、八四―一〇〇頁。なお、この説教(同時に講演でもある)からの引用頁数は、(一)内に原著、日本語訳の順序で記す。

- (40) Martin Luther King, Jr., "Unfulfilled Dreams," in *A Knock at Midnight: Inspiration from the Great Sermons of Reverend Martin Luther King, Jr.*, ed. Clayborne Carson and Peter Holloran (New York: Intellectual Properties Management, Inc. in Association with Warner Books, 1998), 191-200; マーティン・ルーサー・キング「述」「実現せざる夢」『真夜中に戸をたたく——キング牧師説教集——』クレイボーン・カーソン、ピーター・ホロラン編、梶原寿訳、日本キリスト教団出版局、二〇〇七年、二三六―二四七頁。なお、この説教からの引用頁数は、(一)内に原著、日本語訳の順序で記す。

- (41) しかし、それら二つの説教の相違点についての研究は、今後の課題として残っている。

- (42) Martin Luther King, Jr., "I've been to the Mountaintop," in *A Call to Conscience: The Landmark Speeches of Dr. Martin Luther King, Jr.*, ed. Clayborne Carson and Kris Shepard (New York: Intellectual Properties Management, Inc. in Association with Grand Central Publishing, 2001), 207-223; M・L・キング「述」「私は山頂に登ってきた」『私には夢がある——M・L・キング説教・講演集——』クレイボーン・カーソン、クリス・シェパード編、梶原寿監訳、新教出版社、二〇〇三年、二二九―二四六頁。なお、この演説からの引用頁数は、(一)内に原著、日本語訳の順序で記す。

- (43) キングのこの言葉は、申命記第三章二三―二九節と、申命記第四章一九節を、想起させる。なお、キングの言葉の最後は、リパブリック賛歌の一節である。

- (44) 黒崎真『アメリカ黒人とキリスト教』神田外語大学出版局・ペリかん社、二〇一五年、二二三頁。

- (45) 独立宣言と憲法との関係に関して、リチャード・リシャーは、「憲法が神の意図への信頼を保てていないところを、独立宣

言は保てている」とし、「リンカーンは、憲法以上に独立宣言を好んだ」と記している。Richard Lischer, *The Preacher King: Martin Luther King, Jr. and the Word that Moved America* (New York: Oxford University Press, 1995), 152, 298; リチャード・リシャー『説教者キング——アメリカを動かした言葉——』梶原壽訳、日本キリスト教団出版局、二〇二二年、二四二頁、四六四頁。なお、ゲリー・ウィルズ (Garry Wills) 著の『リンカーンの三分間——ゲティズバーグ演説の謎 (*Lincoln at Gettysburg: The Words that Remade America*)』(北沢栄訳、共同通信社、一九九五年) の「訳者あとがき」三七五頁において、北沢栄は、次のように記している。「当時のアメリカは、憲法で黒人を財産とみなしていたばかりでなく、逃亡奴隷取締法のような奴隷制を保護する法規制が現存していた。このように憲法が奴隷制を認める状況だったから、政治家リンカーンが奴隷を解放するためには現実的なアプローチをしなければならなかった」。